

令和7年度 第2回 八千浦区地域協議会

次 第

日時：令和7年7月23日（水）午後6時30分～

会場：八千浦交流館はまぐみ 多目的室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

【自主的な審議】

- ・海岸線視察の振り返り

4 そ の 他

- ・第3回地域協議会

令和7年8月 日（ ）午後6時30分～ 八千浦交流館はまぐみ

5 閉 会

本日の進め方

- 海岸線美化について解決策を検討するための手順の確認
- 地域協議会視察研修（6月26日）の振り返り
 - ・ 海岸線の現状と取組の整理
 - ・ 各委員の感想や考えたことの共有
- グループに分かれて意見を書き出す
 - ・ 地域で海岸美化活動（海岸清掃）を行う意義
 - ・ ゴミを捨てさせない工夫、具体的な対策

海岸線美化について解決策を検討するための手順の確認

ChatGPTによるヒント		地域協議会での具体的な活動
1.問題点の認識と共有	情報収集	6/26視察・現状の確認
	意識啓発	海岸美化に取り組む意義を整理 (今後) 地域住民の課題感を把握
2.意見交換とアイデア出し	住民会議の開催	(今後) 地域住民の意見を聞く
	専門家の招集	(今後) 参考事例から学ぶ
3.具体的な対策の立案	教育・啓発活動の強化	6/26視察を踏まえ、 アイデア出し ・ゴミを捨てさせない工夫 ・もっと知りたい事 など
	インフラ整備	
	監視と報告体制の強化	
4.行動計画の策定	役割分担、タイムラインの設定	
5.実行とフォローアップ	活動の実施 評価と改善	
6.継続的な取り組み	定期的な見直し 地域コミュニティの強化	

地域協議会視察研修（6月26日）の振り返り

- 資料№2「海岸線の現状と取組の整理表」のとおり
参考：八千浦区地域協議会だより№53号
- 各委員の感想や考えたことの共有

感想を参考に話し合いながら ポストイットに書き出す

■ 海岸美化に取り組む意義

- ・なぜ海岸清掃を行わなくてはいけないのか、何のためにやっているのか？

■ 6/26視察・考えたアイディア

- ・ゴミを捨てさせない工夫、具体的な対策を考える
- ・もっと知りたい事、調べたいこと

地域協議会委員の考えを整理し
参考事例の収集や地域住民との意見交換を行う

(参考) 地域で海岸清掃を行う意義

(ChatGPTより)

1. 環境保護の推進	海洋生態系の保護	海岸に捨てられたゴミや漂着物は、海洋生物にとって有害です。プラスチックゴミなどは生物が誤って摂取したり、絡まって命を脅かす原因になります。清掃活動を通じて、海洋生物の安全を守ることができます。
	汚染防止	海岸のゴミが海に流れ込むと、海水を汚染し、その影響が広範囲に広がる可能性があります。清掃活動は、汚染の拡大を防ぐ役割を果たします。
2. 地域の美化と観光振興	景観の向上	綺麗な海岸は地域の魅力を高め、観光客を呼び込む要因となります。観光が活性化することで、地域経済にも良い影響を与えます。
	住民の誇り	美しい海岸は地域のシンボルともなり、住民が地域に誇りを持つきっかけとなります。
3. 地域社会の連携と教育	コミュニティの形成	海岸清掃活動は、地域住民同士が協力して行う取り組みであり、人々の絆を深める場になります。近隣住民だけでなく、企業や学校との連携も進めることができます。
	環境意識の向上	清掃活動を通じて環境への意識が高まり、「ゴミを捨てない」という行動変容を促すことができます。特に子供たちにとっては、環境問題を学ぶ良い機会です。
	未来への啓発	多くの人が参加することで、「次世代のために地球を守ろう」という意識が広がります。
4. 地域課題の解決につながる	ゴミ問題の認識	海岸清掃を進める中で、どのような種類のゴミが多いのか、なぜそれが流れ着くのかを知る機会になります。これにより、地域特有のゴミ問題を把握し、長期的な解決策を考えるきっかけを得ることができます。
	責任共有	地域だけでなく、排出源となる企業や消費者にも責任を共有してもらうことが可能です。
5. 地球規模の課題に貢献	海洋プラスチック問題の解決	海洋に漂うプラスチックゴミは、今や地球規模の環境問題として認識されています。海岸清掃活動は、地球規模で取り組むべき課題に対する一つの解決策になります。
	国際的な取り組みへの参加	海岸清掃は、国際的な環境保護活動（例：国際沿岸清掃デーなど）の一環として実施されることがあり、世界の環境保護に貢献することができます。

(参考) 海岸線のポイ捨てを防ぐ工夫 (ChatGPTより)

教育・啓発活動の強化	1. 地域住民や観光客への環境教育	学校での教育活動	地域の子供たちに環境問題を学ぶ授業やワークショップを提供し、次世代の環境意識を高めます。
		観光客への啓発ツールの提供	展示資料やパンフレット、動画などを宿泊施設や観光地で配布し、地域を訪れる人々にルールを理解してもらいます。
		清掃イベントの参加促進	地域住民や観光客が積極的に海岸清掃に参加できる仕組みを作り、ポイ捨てに対する意識を醸成します。
	2. プラスチックやゴミ削減に対する取り組み	使い捨てプラスチック禁止の推進	地域内で使い捨てプラスチック製品の使用を減らす店舗や事業を支援し、総体的にゴミの量を減らします。
		リユースに関するキャンペーン	観光客や住民に、海岸へ来る際は「マイボトル」「マイバッグ」などを使うよう促します。
	3. 楽しい仕掛けを作る	ゲーム感覚のゴミ捨て促進	捨てたゴミの量に応じてポイントを与えたり、面白い仕掛けのあるゴミ箱への投入口（例えば「ゴミを投げ入れると音が鳴る」「絵が完成する」といったデザイン）を導入することで、楽しみながら清潔な環境を維持します。
	4. SNSやデジタルツールの活用	SNSで清掃活動を広報	海岸清掃の「ビフォー＆アフター」の写真や動画をSNSで発信し、ポイ捨てが環境を汚染する例を広く知らせます。
		ゴミ防止アプリの利用	地域専用の清掃活動アプリや、ポイ捨てが報告できるアプリを開発し、リアルタイムで改善を目指します。
インフラ整備	5. 啓発活動を行う	環境問題に関する情報提供	ポイ捨てが環境や海洋生物に与える影響を伝えるパンフレットや展示を用意し、人々に問題意識を持たせる。
		看板や標識の設置	海岸沿いに「ゴミをポイ捨てしないでください」といったメッセージを掲示しましょう。視覚的で分かりやすい看板やイラストを活用して注意喚起を行います。例えば：「ゴミはあなたの後ろに残さず、きれいな海岸を未来へ」など。
	6. ゴミ箱などの設備を充実させる	ゴミ箱の設置	海岸線に適切な位置でゴミ箱を設置しましょう。「分別用ゴミ箱」を設置し、リサイクル意識も高めます。ゴミ箱がない場合、利用者はポイ捨てをしてしまいやすくなります。
		目立つデザインのゴミ箱	視覚的に目立つカラフルなゴミ箱や、ユニークなデザインを取り入れることで、利用者の印象に残らせ、ゴミ箱へのゴミの捨て方を促進できます。
		喫煙スペースの設置	タバコのポイ捨てを防ぐため、指定の喫煙スペースを設けることで利用者を管理できます。
監視と報告体制の強化	7. ポイ捨てのペナルティを強化	罰則の導入	規則を設定し、ポイ捨てに対する罰金や行政指導を行う法律や条例の制定を検討します。違反者に具体的なペナルティを課す制度を広報します。
		監視カメラ設置	ポイ捨てが特に多い場所に監視カメラや見守りカメラを設置し、ポイ捨ての抑制につなげます。
	8. コミュニティの協力を促進する	地域の見回り隊を編成	地元の住民やボランティアが協力して、海岸の見回りを行い、ポイ捨てをする行為の抑止効果を狙います。
		「美しい海岸を守る会」などの設立	地域の協力団体を作り、清掃活動やゴミ防止活動をする団体の活動を広報します。

海岸線の現状と取組の整理表（八千浦区地域協議会視察研修の振り返り）

視察実施日：令和7年6月26日(木)13：00～参加者：八千浦区地域協議会委員10名

		海岸線（黒井突堤付近）	西ヶ窪浜	夷浜	大潟区渋柿浜	東北電力上越火力発電所	下荒浜
(A) ゴミ・廃棄物の状況	主なゴミの種類 プラスチック、ビニール袋、タバコの吸い殻、空き缶、ガラス瓶など。		不法投棄、空き缶、ペットボトル、瓶（砂浜で足を切る危険あり）、牡蠣やサザエの貝殻	不法投棄、キャンプやBBQのゴミ	不法投棄、タイヤ、釣り客のゴミ		
	ゴミの量や堆積場所 ゴミが集中している場所、風や潮の影響による散乱状況	・投棄ゴミの他に漂着ゴミも多く、風により草木に集まる ・クリーン作戦後だったためか、思ったよりもゴミは少なかった	・手入れが行き届いており、きれいにされている ・町内会整備により、不法投棄、空き缶やペットボトルは少なくなってきている。 ・影になるところにゴミが捨てられる	・刈り取られていない藪の中は不法投棄の対象となる ・草の生い茂るところ、目につきにくいところに捨てられる傾向	・手入れが行き届いており、きれいにされている。ただし、不法投棄がないわけではない	ゴミの量を計測していないので、量の変化は分からない。袋10個分ほど。それほど汚れている印象ではない。	
	作業状況 清掃活動の頻度や効率性の確認		・町内会保安林整備（主に除草）5～10月までの6回 ・保安林整備は定期的に3団体が実施している ・町内会草刈り5～10月までの3・6回 ・町内会海岸清掃4～10月までの7回 ・町内の避難場所になっているため、町内会が中心になって管理を行っている	・町内会クリーン作戦年に3回（1回約40人） ・上越市海岸線環境美化促進協議会（7月） ・明まちの生活環境部会 ・町内の有志が草刈り ・「釣りクラブ」がネットやSNSで参加募集。長野県からの参加者もいる。	・松葉かき、草刈り年に3回 ・町内会海岸清掃年に3回 ・公的機関の申請手続きの大変さを感じた	・3社合同で7・10月の2回（1回80名）臨港道路美化活動 ・上越市海岸線環境美化促進協議会（7月）に協力※明まちからの要請	・町内会クリーン作戦 ・海岸線東50m、西50m ・国道8号線沿い
(B) 環境の状況	植生や動植物の状況 植物の荒廃、生物が影響を受けている可能性の確認	・「はまぐみの郷」の看板があるが、はまぐみが見当たらない	・松林の中は藪（アカシア、竹林、つる草）であったが、長い年月をかけて伐採除去を行った。		・何もしなければ松林は荒れ、獣道となり、不法投棄も後を絶たない		
(C) 利用者の状況	観光客や地元住民の人数や行動 バイ捨て、焚き火など迷惑行為の確認	・釣り客 ・レジャーシーズン	・土地が高いため、津波発生時の避難場所になっている	・海岸線から一歩奥に入った土地は外部の人の格好のキャンプ場になっている	・幼年野球の練習場に隣接している		
	設備の利用状況 ゴミ箱・ベンチ・トイレなどの利用頻度や設置場所の適正さ	・赤い鳥居（誰が設置したか分からない） ・明まちの啓発看板 ・看板が設置されていても、草木で見えなくなっていた		・海岸線から一歩奥に入った土地には看板はなく、クリーン作戦での対応のみ。			
(D) 地域や施設の現状	インフラの状態 整備された道や駐車場、トイレ設備の確認	・砂浜付近に自由に車を駐車できる	・トイレが整備されており、衛生面での環境汚染は多少なりとも防がれている				
感想 考えたこと		・不法投棄を防ぐ看板も古くなると効果は薄いと感じた。古いほど看板も放置されているようで、管理が行き届いていない印象になる。	・どの町内もきれいな海岸線を守るために頑張っている。何とかこういう努力を利用者(特に地域外)に伝える方法はないものか。	・町内や地元住民だけではなく、SNS等を利用し、直江津の様に外部の活動家の力を借りる。ゴミ＝マイナスなことではなく、八千浦地区の発信につながるプラスの発想を持ちたい。 ・美化活動のクリーン作戦も大切だが、ゴミを捨てさせない工夫、対策を考える必要があるのではないか。 ・なぜ海岸清掃をしなくてはいけないのか、何のためにやっているのかをもっと住民が深く考えなくてはいけないと感じた。	・高齢化が進んでいるが、活動を続けていることに敬意を表したい。 ・生まれ育たこの地に次世代の子ども達が住み着く気持ちになれるように活動している。 ・ゆくゆくは花いっぱい公園にしたいという明確な目標、想いがある。 ・どの地域にも不法投棄があるという現実が分かった。林の奥の枝にペットボトルが刺さっているなど、故意であることが考えられる。 ・クリーン作戦しか対策はないが、環境を整備した方が捨てられる確率は低くなるようだ。	・世界ギネスも認定された、上越火力は八千浦の宝。火力発電所と共生してよりよい八千浦地域を目指したい。特産品の開発など。 ・発電効率を学び、カーボンニュートラル、カーボンオフセットの取組を意識したい。 ・地域と密着、合同で環境保全活動をされており、継続して力を貸していただきたい。 ・クリーン作戦の参加者を増やし、活動の輪を大きくしたい。 ・大きな企業の従業員に、八千浦に住んでもらう働きかけができないか。	